

第1学年算数科指導案

1. 単元名「ひろさくらべ」(第1時/全2時間)

2. 指導の立場

(1) 単元の目標

広さの比べ方を考え、直接比較によって比べたり、任意単位を用いて数値化して比べたりすることができ

知 直接比較によって、広さを比較したり、任意単位によって数値化して比較したりすることができることを理解している。

思 長さと同じように、任意単位を用いて広さを比べようとしている。

主 身の回りの物の広さに進んで関わり、比べ方を考えようとしている。

(2) 単元について

本単元は、「測定」領域の学習であり、第1学年では、身の回りにある特徴を量に着目して捉え、量の大きさを比べる方法を考える力を養う。また、量から身の回りの事象の特徴を捉え、具体的な操作を通して、量の大きさの比べ方を見いだす。1年生では、直接比較や間接比較、任意単位を設定して大きさを比べることを行い、第2学年の普遍単位の学習へと繋がる。

これまでに児童は、「ながさくらべ」の学習を通して、長さを直接比べること(直接比較)やテープで長さを写し取って比べること(間接比較)、指や鉛筆、マスなど共通単位(任意単位)として長さを数で捉え、大きさを比較することを学んできている。本単元の広さの学習でも、児童の身近なものをもとに、具体物を使った操作(直接比較)を十分に行う。また、既習事項をもとに「いくつぶん」という任意単位で比較することのよさにも気付かせていきたい。

(3) 児童の実態(男子13名 女子5名 18名)

学習への意欲は高く、教師の発問に対して、積極的に反応しようとする児童が多い。

児童は、入学当初から、校庭が園庭よりも広いことや、ドッチボールをするときのコート

日時:令和6年11月19日(火)

13:30~14:15(1年2組教室)

指導者:

について話をしており、「広い」「狭い」と言った発言は日常場面でも耳にする。広さの学習への抵抗はそれほど大きくないと考える。直接比較については、長さの学習をもとに、児童もすぐに気付くことが予想される。「広げる」「角を合わせる」「向きを変える」といったよりよい比較の方法についても、丁寧に押さえたい。

長さの学習では、方眼を使うよさを「大きさが同じだから、いくつ分か比べられる」と考える児童もいた。その考えをもとにしながら、広さでも、直接比較ができないものの広さの比較を考える活動を通して、任意単位への比較へとつなげたい。

3. 研究テーマとの関わり

見方・考え方を働かせ、数学的に考える児童を育てる指導の在り方

①数学的な見方・考え方を明確にし、意図的、計画的な手立てを明らかにした数学的活動

本単元において働かせる数学的な見方・考え方は、比べるものの特徴に着目すること、単位のいくつ分で考えることである。第1時では、実物を使って多くの広さ比べを行う。そこで、「広さ」の概念を捉えさせたい。そこから、直接できるもの、形をうつしとれるもの、それ以外の比較方法へと考えを深めていく。そして、次時の任意単位の学習へとつなげたい。第2時では、任意単位を用いるとよさを味わわせつつ、既習とのつながりや、他の測定領域への興味へと考えを広げ、「かさくらべ」へと繋げたい。

②どのような場面でのように見届けるか

本時は、身近なものの直接比較を実際に行う。また、次時には、任意単位を用いて「いくつぶん」を使えば広さを比較できることへ理解を深めていく。本時は「ながさくらべ」をいかして、直接比較や任意単位のいくつ分に気付ける姿、積極的に比較をし、「広さ」の学習に意欲的に取り組む姿を目指す。見届けは、児童の発言や活動を中心に行う。

4. 本時のねらい

広さについて、具体的な操作によって、身の回りのものの広さを直接比べることができる。

5. 本時の展開（第1時／全2時間）

学習内容	指導・援助
1. 問題場面を確認する。 はんかちのひろさをくらべましょう。 ・重ねれば比べられそう。 ・ちゃんと角を合わせないといけない。 ・縦や横もそろえたほうがいい。 2. 課題を提示する。 いろいろなものの、ひろさをくらべよう。 3. 隣同士のハンカチを比べてみよう。 ・同じくらいの広さだった。 ・僕のほうが広がった。 ・角を合わせたら、ちゃんと確かめられたよ。 4. ノートと教科書と折り紙の大きさを比べてみよう。 ・そのまま重ねると、上は教科書が大きい。 ・横はノートのほうが大きい。 ・向きを揃えたほうが、わかりやすい。 ◎重ねて比べる時は、向きを揃えて、角や縦横を揃えると比べやすい。 5. 本時をまとめる。 ・ひろさをくらべるときは、ひろげて、むきをそろえて、かどをあわせて、かさねるとわかりやすい。 6. 教室内のさまざまなものの広さを比較する。 ・教科書と机は、机のほうが大きい。 ・ノートと図書館の本では、図書館の本のほうが大きい。 ・図書館の本をくらべると、向きを変えても比べられないものがあるよ。 7. 教室内で、直接比較できなかったものについて比較の仕方を考え、次時への学習への見通しを持つ。	・同じくらいのハンカチで問題提示を行い、見た目での比較でなく、重ねて比較させるとよいことに着目させる。 ・どのように重ねるとよいかを考えさせることで、重ね方のポイントを掴ませる。 ・具体物の操作を通して、全員に直接比較を体験させる。 ・どうして広いと思ったかを聞くことで、判断の根拠を明らかにする。 ・前期の教科書や自分の使っていたノートを使うことで、広さの比較を身近なものとして捉えさせる。 ・比較がしやすい向きに変えることのよさを実感させる。 評価規準（知・技） 広さを具体的な操作によって比べることができる。 ・ハンカチの形や、図書館の本など、教室内の比較では、直接比較できないものに気付く児童が予想される。どうやって比較するかを、次時と繋げて、考えを深める。